陶磁器の観察ポイント

沖縄県立埋蔵文化財センター　調査班　玉城綾

本日の内容

種類：青磁、白磁、染付・・・
産地：中国産、タイ産、ベトナム産・・・
器種：碗、皿、壺・・・
部位：口縁部、胴部、底部・・・

陶磁器のこれらを見分けるポイントを紹介します！
それぞれによって、ポイントも違い、感覚的な部分も多くあります。

用語説明

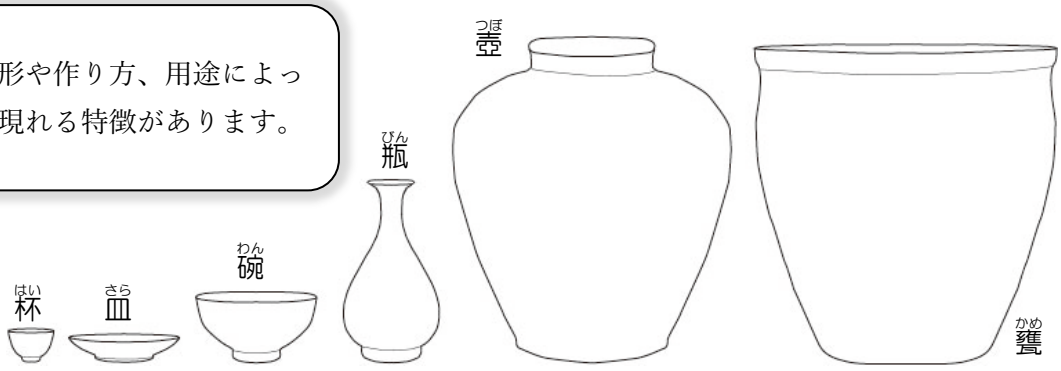
遺物（いぶつ）：発掘調査で採取してきた出土品のこと。
胎土（たいど）：やきものに使用される土のこと。
素地（そじ）：陶磁器の生地の部分で、その上に釉薬がかかる。
釉薬（ゆうやく）・釉（うわぐすり）：素地の上にかけ、表面を覆い、焼成するとガラス質になる。

陶磁器の断面写真

器種の特徴

○ 皿は、高さが低く、内側に文様が入るものが多い。
○ 瓶は、外側には釉薬がかかるが、内面は釉薬がかからない。　　など

形や作り方、用途によって現れる特徴があります。



陶磁器の種類・産地

「染付は白地に青い文様がある磁器」や「褐釉陶器は褐色（茶色）の釉薬がかかる陶器」など見た目や素地の質感で種類分けをしています。

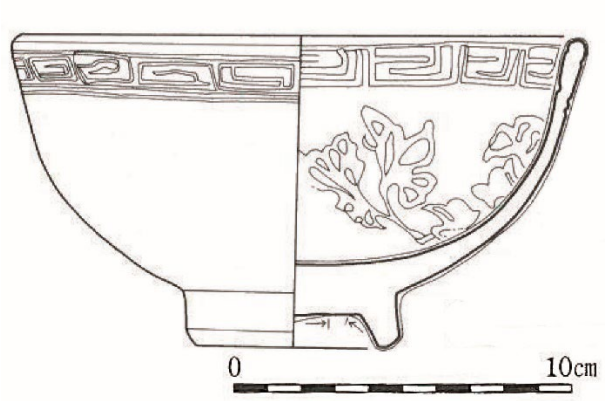
産地を見分けるには、種類ごとに分けたものの中から、質感・雰囲気の違いを見つけていくとわかりやすいです。

中国産の陶磁器

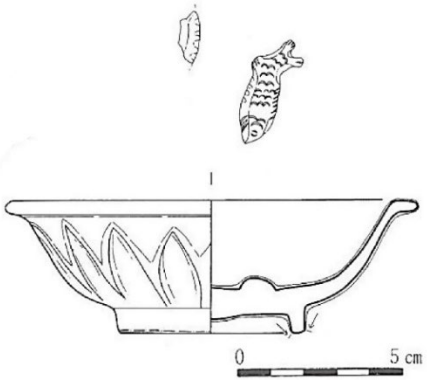
タイ・ベトナム産の陶磁器

それぞれの種類の実測図

実測図とは、実際に計測して書かれた図で、陶磁器を横から見た図の左側には外側の様子、右側には断面と内側の様子などが描かれています。皿の内側の模様などは横からはよく見えないので、そのような場合は上からの図を別で描きます。



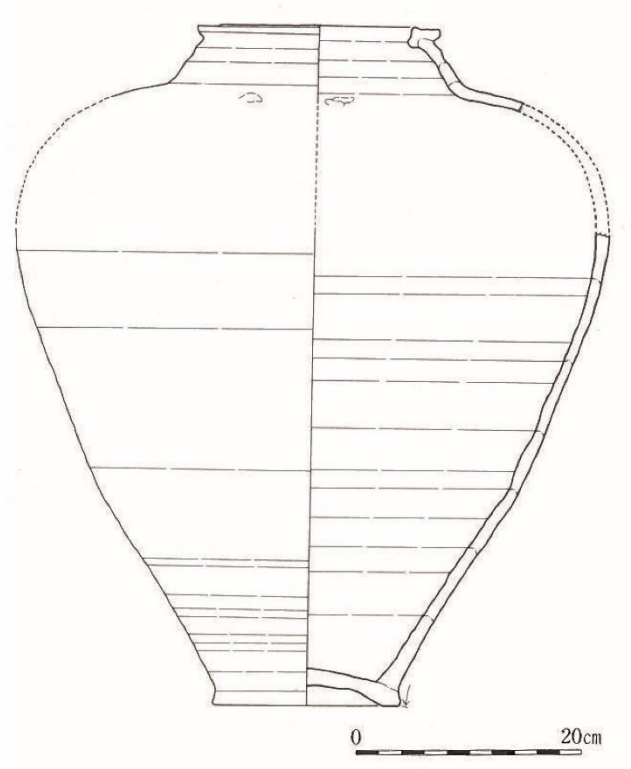
中国産青磁　碗



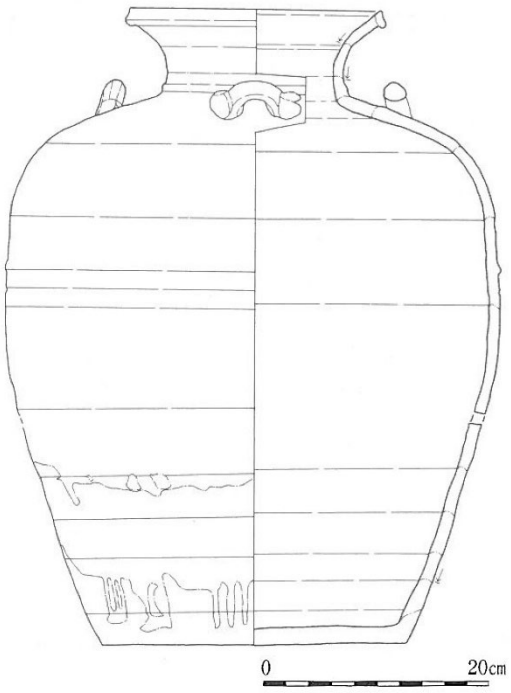
中国産青磁　皿

中国産青花（染付）　碗

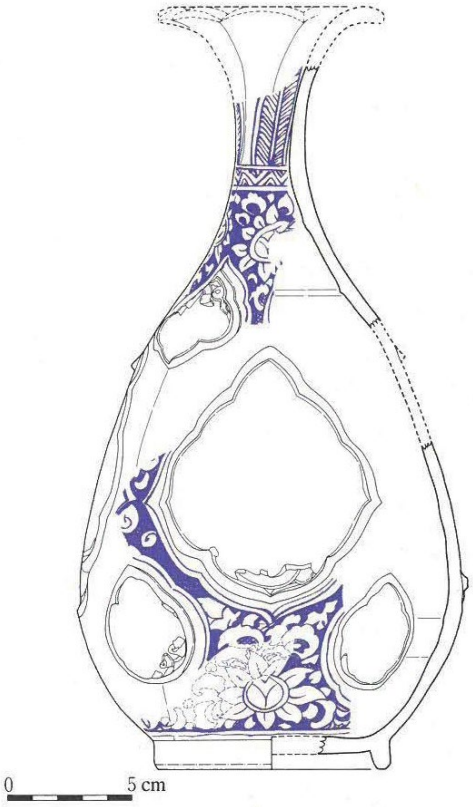
中国産青花（染付）　皿



中国産褐釉陶器　壺



タイ産褐釉陶器　壺



ベトナム産染付　瓶

各産地と種類の説明は、「令和２年度重要文化財公開　発掘された倉庫跡」の図録 10 ページにか書かれています。

参考にしてみてください。

中国産とタイ産の褐釉陶器の素地

中国産褐釉陶器壺

中国産その１

中国産その２

中国産その３

タイ産褐釉陶器壺

タイ産その１

タイ産その２

この２つの褐釉陶器の壺と言っても数種類あります。

素地の質感や混ざりもの、そして形や釉薬の違いを見きわめていきます。始めは難しいですが、実際に手に取って見てみると違いがわかってきます。